

キャリアラダー ・ 職能要件書

業務	課業内容	専門職業人としての看護職に必要な能力	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ	
		レベルの定義	基本的な手順ガイドラインなどに従い必要に応じ助言を得て行動・実践できる	標準的なマニュアルなどに基づき自立して(看護)行動できる	(ケアの受け手に合う)個別に応じた行動(看護実践)ができる	幅広い視野で予測的判断を持ち行動(看護を実践)することができる	より複雑な状況において(ケアの受けてにとって)最適な手段を選択し行動(QOLを高めるための看護を実践)することができる	
基本姿勢	社会性	社会人としてのマナー、規律に沿って責任ある行動がとれる	・基本的なマニュアル・ガイドライン・手順等に従い必要に応じ助言を得て行動することができる	・マニュアル等に基づき自立して行動することができる	・状況に合った個別に応じた行動をすることができる	・幅広い視野で予測的判断を持ち責任ある行動ができる	・より複雑な状況において、最適な手段を選択し行動できる	
	法的実践・倫理的・専門的実践	看護倫理綱領に基づいて看護を実践する法に基づき、ガイドラインに沿って実践を行う	・法律・看護倫理などを知り、必要に応じ助言を得て行動・実践できる	・倫理的側面などを理解し、自立して(看護)行動できる	・倫理的側面を理解し、個別に応じた行動ができる	・看護実践を倫理的視点で評価出来る患者の意思決定を支援できる	・患者の意思決定場面でリーダーシップを発揮できる	
自己教育研究能力	専門性の強化	自己教育や研究を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努める	・自己の課題を発見し、自主的な学習に取り組むことができる	・自己の課題を明確にし、達成に向けた学習活動を展開することができる ・自己の看護を振り返り課題を見出すことができる	・自己の学習活動に積極的に取り組み、新人や看護学生に対する学習の指導的な役割を実践することができる ・院外研修を看護実践に活かせることができる	・自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に取り組み、後輩のロールモデルとなることができる ・看護研究的視点をもてる	・専門領域(スペシャリスト選択)や高度な看護技術等について自己教育活動を展開することができる ・研究活動を通し専門看護を深めることができる	
組織的役割遂行能力	役割業務	医療チームとしての部署、個人の役割を認識し、役割を遂行するため能力の維持・開発に努める(医療安全 感染予防 物品管理 労務管理含む)	・部署内でのメンバーシップの役割が果たせる ・起こった事象についての報告が迅速にできる	・部署内での役割が理解でき、部署の目標達成に向けて、基準や手順を遵守した行動ができる ・日々の看護業務においてメンバーシップ・リーダーシップがとれる。	・部署内での組織的役割が遂行できる ・チームリーダーやコーディネーターの役割、創造的能力を要求される系の役割を遂行できる	・組織の中で特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割、または指導的な役割(学生、新人指導、委員会など)を遂行できる。 ・看護単位(機能)の課題の明確にできる	・所属を超え、看護部や病院から求められる役割を遂行できる ・看護単位の課題に対し、具体的行動計画が図れる	
看護の提供(クリニカルリーダー)	看護実践	ニーズをとらえる力	目標	・助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ・ケアの受け手の状況から緊急度を捉えることができる	・自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ・得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題を捉えることができる	・ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性をふまえ必要な情報収集ができる ・得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	・予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ・意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	・複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる ・ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
		ケアする力	目標	・看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる ・指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる	・ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ・ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる	・ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる ・ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる	・ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる ・幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こり得る課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	・ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護及び看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追究できる ・複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
		協働する力	目標	・助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、それを関係者から情報収集し共有することができる ・助言を受けながらチームの一員としての役割を理解することができる ・連絡・報告・相談ができる	・ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上で、それぞれ積極的に情報交換ができる ・看護の展開に必要な関係者を特定できる ・ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる	・ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力しあいながら多職種連携を進めていくことができる ・ケアの受け手とケアについて意見交換できる	・ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる ・多職種間の連携が機能するように調整できる	・複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと働きかけることができる ・多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる ・目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
		意思決定を支える力	目標	・助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	・ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる ・確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	・ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる ・ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる ・ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	・ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを導きだせる	・適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる ・法的及び文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる